

県立広島大学「高校連携講座」開催

(H25. 08. 10)

去る8月10日(土)、県立広島大学庄原キャンパスにおいて、本校生徒を対象とした「県大・高校連携講座」が開催され、15名の生徒が参加しました。

この講座は、しょうばら産学官連携推進機構のコーディネートにより、庄原キャンパス・生命環境学部のバックアップにより、普段の生物の授業ではなかなか経験できない実験を体験させてもらうなど大学で行われている講義の一端に触れ、探究心や向学心の向上を図ることを目的としたものです。当日は、「発展的生物学(DNAの抽出と電気泳動)」をテーマに、環境科学科長の原田教授、有馬助教、実験補助の大学院生3名により熱心な指導を受けました。

DNAは、電子顕微鏡を使えば見ることができますが、もっと簡単にDNAの存在を確認する方法があり、それが電気泳動です。まず、カイワレ大根やブロッコリーの細胞膜を壊し、DNAを抽出しました。DNAは、マイナスの電荷を持っており、DNAの溶液に電気をかけると、プラス電極に向かってDNAが移動していきます。DNAはその長さにより移動する距離が異なるため、DNAの存在を肉眼で確認することができます。生徒は、身近な道具や先端の実験装置を使い、真剣に実験に取り組んでいました。また、準備していただいた実験用の白衣姿がいくらか頼もしく見える一日でした。県立広島大学庄原キャンパスに感謝するとともに、今後も連携を継続して行いたいと強く思う、有意義な一日でした。

